

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 相武台新日本保育園

発効：平成21年9月25日(平成24年9月24日まで有効)

社団法人神奈川県社会福祉士会

社団法人神奈川県社会福祉士会 評価結果

事業所基本事項

フリガナ	シャカイフクシハウジンシンニホンガクエン ソウブダイシンニホンホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	社会福祉法人新日本学園 相武台新日本保育園
事業所住所 最寄駅	〒228-0823 相模原市相武台団地1丁目4番3号 小田急線小田急相模原駅下車 徒歩15分
事業所電話番号	046-251-3215
事業所FAX番号	046-252-1818
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 篠リエ子
法人名及び 法人代表者名	法人名 社会福祉法人新日本学園 法人代表者氏名 理事長 鈴木 寛
URL	
e-mail	
問合せ対応時間	9:00~17:00

事業所の概要1

開設年月日	昭和43年2月1日
定員数	120名 (本年4月1日の在籍園児年齢 3歳未満:71名 3歳以上:49名)
都市計画法上の用途地域	
建物構造	造り 2階建て
面積	敷地面積(1373.13)m ² 延床面積(731.62)m ²

事業所の概要2(職員の概要)

総職員数	29名 平成21年8月現在
うち、次の職種に該当する職員数	園長(1名) 副園長(1名) 主任保育士(1名) 保育士(16名) 栄養士(3名) 事務員(1名) <パート職員> 延長保育(2名) 保育補助(3名) 調理補助(1名)

事業所の概要3(受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後3ヶ月~小学校就学未満 状況により2ヶ月も可	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:H20年度より辞退
一時保育の実施	有	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者との共育てを軸に子どもの成長・発達をはかる。 ・ 自然とのふれあいや地域の人々との関わりの中で豊かな感性や人を思いやる心を育てる。 ・ やらうとする気持ちを大切に、自分で考え行動出来る子を育てる。 ・ 地域での子育て支援の核となるよう関係機関とも連携を取り在宅の子育てにも取り組む。

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

優れている点・独自に工夫している点：

幼児クラスでは保育士の配置数を多くし、各クラスとも複数担任制としている。複数担任制をとることで、子どもたちの個別のニーズを把握し、散歩や園外活動、園バスを利用した外出の機会を多く設けている。

高尾登山や野外炊飯、また園庭や畑を借りての野菜やお米作りなど、自然と触れ合う機会を多く持ち、はだし保育を行い、子どもたちの豊かな心と健康な身体作りをしている。

身体を動かす取組みを多く取り入れている。サッカー指導では、近隣3園で交流試合を行い、他園児と交流している。

外部講師を定期的に招き、絵画指導や煎茶指導を行っている。月1回の絵画指導では、アートクラブ保育カリキュラムに基づき、立体作品や絵の具やクレヨン画、干支の墨絵や絵本作りなど多彩なカリキュラムにより、子どもたちが楽しみながら制作に取組めるように支援している。煎茶指導を月2回受け、行儀作法や挨拶の仕方を養っている。

栄養士を3名配置し、食育年間計画を作成し、食への関わりを大切にしている。調理室はガラス張り、食堂から調理の様子が見えるようになっており、食に対する関心を高めるよう工夫されている。

和食中心の1汁4菜の給食を提供し、離乳食やアレルギーに対応した献立を作成している。また、延長保育においては、延長保育軽食献立表を作成して、保護者に配布している。延長保育軽食献立は、オニギリなどと一緒に、栄養のバランスを考えた野菜などを多く使った実だくさんスープ類を提供している。

4、5歳児は毎月、近隣のケアセンターを訪問したり、園で行う敬老の集いに招待したりして、高齢者との交流を定期的に行っている。交流を深めることで、不自由な部分に気付いたり、年長者を敬う気持ちを培うことができるよう取り組んでいる。

小学校入学前に、小学校と情報交換をしたり、小学校の授業参観に参加したりして、子どもたち一人ひとりの小学校生活がスムーズに行えるよう支援している。

子どもたちの個人情報に関する記録や日誌類はパソコンに入力し、個人情報の保護に留意している。入力したデータは毎朝、職員が内容を確認することで情報を共有している。データの外部流出を防止するため、講師を招き、研修を実施している。

年度末に職員アンケートを行い、職員全員が1年間の行事の内容や保育内容を見直している。自己評価の結果を基にして、次年度の保育内容の向上への取組みを行っている。

今後の取組みに期待する点：

災害発生予測時の施設機能に応じた地域支援体制については、未整備である。地域との連携について、早急に対策をとることを期待する。

評価領域ごとの特記事項		
1	人権への配慮	<p>園児や保護者に対する適切な言葉遣いや態度については、「職員教育マニュアル」に定め、職員会議等により共通認識をもち、保育に取り組んでいる。保護者の置かれている社会的な状況や家庭状況を理解して接するよう、会議等で伝えている。</p> <p>子どもの虐待予防や早期発見については、児童相談所、子供支援センター等と連携をとりながら、情報交換を行っている。</p> <p>「個人情報保護に対する基本方針」が制定されており、職員会議等で周知し、職員の意識の徹底を図っている。園児の個人情報に関する記録や日誌類は、パソコンに入力し、毎朝、職員が内容を確認することで情報を共有している。データの外部流出を防ぐため、講師を招き、研修を実施している。</p> <p>実習生や見学者の受け入れに当たっても、要綱を整備し、プライバシーの保護について説明している。</p>
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<p>家庭との連絡・情報交換は、入園時の「ご利用にあたって」にて、情報交換の手段、方法を説明している。園だより、クラスだよりを毎月発行する他に、全園児に対して連絡ノートを用意し、保護者と情報を伝え合っている。</p> <p>クラス懇談会を年3回実施し、保護者の意見・意向を把握している。個人面談は、必要に応じ随時、行っている。懇談会や保育参観、保育参加及び日々の連絡ノートにて、保護者の希望や意向を把握している。</p>
3	サービスマネジメントシステムの確立	<p>子どもが触れるおもちゃ、タオル、布団、砂場等の物品の除菌・消毒、遊具の安全保持の管理については、「園児健康管理マニュアル」に管理方法等を定め、点検実行記録をつけて、衛生面、安全面の管理を行っている。</p> <p>消毒薬や洗剤等の危険物の取り扱いは、保管倉庫を施錠し、「在庫確認表」に記録することで、安全管理を行っている。</p> <p>防犯、防災対策については、防犯訓練、避難訓練を実施し、職員会議で話し合いと見直しを行っている。園の出入りは、カードキーを使用し、不審者の侵入の防止に努めている。また、災害等の発生に備え、消防署や関係機関と情報交換を行っている。</p>
4	地域との交流・連携	<p>地域の子育て支援については、「育児センター年間計画表」を作成し、月に2回、保育体験や「あそぼうデー」の日を設けている。保育ウィークの「ふれあい動物園」は特に好評で、70～80名の親子の参加がある。また、3園合同の「のんびり広場」を開催し、交流事業を行っている。案内は園の玄関や近隣のケアセンターに掲示する他、機会を作って近くの公園でチラシを配布している。</p> <p>育児相談や園庭開放は、随時、行っている。</p> <p>月に1回、近隣のケアセンターを4、5歳児が訪問し、高齢者と定期的に交流している。</p>

5	運営上の透明性の確保と継続性	<p>日々の記録類に、反省・効果欄を設け、職員の自己評価につなげている。また、「年度末職員アンケート」を実施し、年間行事や保育内容について検討を行い、次年度につなげている。マニュアル類を見直し、「健康管理マニュアル」としてまとめたり、保育指針の見直しに対し、指導計画を見やすく整理した。</p> <p>保育園の運営や事業内容について、地域からの理解が得られるよう、地域の方に向けて、園パンフレット等を用意している。また、保護者に保育園での子どもの様子をみてもらう機会として、保育参観や保育参加等を実施していることを、「年間行事予定表」等で情報提供している。</p>
6	職員の資質向上促進	<p>保育理念や方針については、「職員教育マニュアル」に掲載し、職員会議で周知して基本姿勢の共有化を行っている。「職員教育マニュアル」は、職員一人ひとりが携帯している。</p> <p>年間研修計画に基づき、内外研修を実施、受講している。外部研修は受講後に、職員会議で内容を報告し、職員全体のレベルアップの機会としている。研修報告書は事務所に置き、いつでも閲覧できるようにしている。</p>

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 (調査確認事項全 80 事項) を通してのサービスの達成状況	94%
---	-----

大項目 1 の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目 2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>幼児クラスでは複数担任にすることで、個別に対応する時間も取るようにしている。 乳児クラスでは可能な限り同じ保育士が対応することで、情緒の安定を図っている。 毎月の職員会議で、クラスの状況や個々の様子を伝え合うようにしている。</p>	<p>幼児クラスの担任の人数は基準を上回って複数配置している。複数の担任を配置することにより、散歩や園バスを利用した園外活動の機会を多く作り、子どもたちの個別のニーズにも対応できるようにしている。(保育室での様子や担任名、園だよりにて、内容を確認した。) 月齢の低い乳児や入園まもない乳児の場合は、同じ保育士が関わるようにしている。(保育室での様子や職員会議録、児童票にて、内容を確認した。) 毎月の職員会議で、クラスの状況や個々の様子を伝え合うようにしている。(職員会議録にて、内容を確認した。)</p>
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを育てるためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>遊びや生活の中で自己主張のぶつかり合いを認め、むやみに禁止せず一人ひとりの思いに共感できるよう、乳児は小グループで過ごしている。 幼児は集団活動も大切にして、他者の思いに気付けるようにしている。 異年齢や支援の必要な子どもたちと過ごし、体力差、発達の違いに気付き、思いやる気持ちが持てるよう援助している。</p>	<p>それぞれの月齢や生活パターンに合わせて、グループに分かれて支援している。0歳児の続き部屋が予備の部屋になっていて、0、1、2歳児がその時々グループ遊びに使用している。(保育室での様子や個別配慮表等にて、保育士の関わり方を確認した。) 特別に支援の必要な子どもを受け入れて、専任の保育士を配置して保育にあたっている。(行事の見直し等の書面にて、一緒に活動していることを確認した。) オープン保育月間指導計画に沿って、異年齢で過ごす機会を多く作り、それぞれの違いを認め、思いやりの気持ちが育つようにしている。(保育室での様子や職員会議録、オープン保育指導計画にて、内容を確認した。)</p>
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることを楽しむことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>縦集団グループでの活動も取り入れ、小さい子への気遣いや思いやりが持てるよう援助している。 お手伝いや当番活動を年齢に応じて取り入れ、人との関わりや当番の責任などに気付けるようにしている。 デイケアセンターの高齢者との交流を通し、思いやりや敬う気持ちを培うようにしている。</p>	<p>オープン保育月間指導計画を作成して、発表会でグループ毎に楽器、歌、踊りなどを行ったり、4、5歳児が一緒にお別れ遠足に参加して交流している。(職員会議録にて、取組みの内容を確認した。) 4、5歳児は当番活動で、食事や午睡の支度、ゴミ、タオル集めなどを行って、責任感の育成や人の役に立つことに気付かせるよう援助している。(当番活動の様子や当番表、週案にて、内容を確認した。) 4、5歳児は、月に1度、近隣のケアセンターを定期訪問して、世代間交流を行っている。(保育日誌や写真、掲示物にて、交流の状況を確認した。)</p>

<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>相手の目を見て話す、聞くの、対話の基本を常に保育士が実行している。 ごっこ遊びや模倣遊びをじっくり楽しめるよう環境を整えたり、子どもの状況に応じた声かけや見守りを通し、言葉や生活感を育てるようにしている。</p>	<p>保育士が子ども達のお手本となるように、相手の目を見て聞いたり、話したりしている。 (保育室での様子や職員教育マニュアルにて、保育士の関わり方を確認した。) 5歳児指導計画の集団遊びに基づいて、「おみせやさんごっこ」が行われている。「おみせやさんごっこ」を通じて、言葉のやり取りの楽しさや、生活感を育てるようにしている。(おみせやさんごっこ遊びの様子や職員会議録、週指導計画にて、内容を確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>乳児クラスを中心に小グループの活動を通し、一人ひとりの話に耳を傾ける機会を大切にしている。 絵本や童話を見たり聞いたりする機会を多くし、生活の中で語彙が豊かになるよう援助している。 経験したことを(誰と、何を、どうしたか)話すことで自分の意見をまとめたり、聞く力を育て、話す喜びや理解力を育てている。</p>	<p>年間保育計画に基づき、小グループの活動を通じて、楽しんで話したり、聞くことができるようにしている。(保育室での様子や年間保育計画、保育日誌にて、小グループの取組みの内容を確認した。) 給食の前や午睡の前に、保育士が絵本の読み聞かせを行っている。(保育室での様子や絵本の設置状況にて、内容を確認した。) 3歳児からは、生活発表を行っている。(週指導計画にて、内容を確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>実体験や自然体験での感動や不思議を大切にして、子ども自身が表現しようとする気持ちを培っている。</p>	<p>音楽を通じて歌う楽しさを感じたり、4、5歳児はピアノなどの楽器に触れて、身体で音やリズムを楽しんでいる。 4、5歳児は、毎月1回、外部講師による「絵画指導」を行っている。 5歳児では、自然体験を多く取り入れて草花や生き物に対する興味を高め、図鑑を使って自分で調べている。 捕まえた虫は、帰る時にきちんと逃し、草花はむやみに採らないことを理解している。 (ピアノの設置状況や懇談会資料、アートクラブ保育カリキュラムにて、取組みの内容を確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>描画、造形、リズム表現など好きな表現遊びを選べるようにして、意欲を高めるようにしている。 各行事の表現活動に個別の目標などをもち、それぞれの意欲を育てている。</p>	<p>毎月の外部講師による「絵画指導」では、四季についての認識を深めたり、立体作品や絵の具やクレヨン画、干支の墨絵や絵本作りなど多彩なカリキュラムにより、子ども達が楽しみながら制作活動に取組めるように支援している。(子ども達の作品の展示状況やアートクラブ保育カリキュラム、園だよりにて、取組みの状況を確認した。) 4、5歳児では、運動会や発表会などを通じ、子どもの目標や今後の課題などについて、個々の様子の記録と評価を行っている。(個人目標やクラス目標にて、取組みの状況を確認した。)</p>

<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>自然の中で遊ぶ機会や散歩を積極的に取り入れ、身体を使って遊ぶ楽しさや、五感を使っているいろいろなことを感じられるように援助している。</p>	<p>朝夕の自由遊びは、天気の良い日は園庭やテラスに出て遊んでいる。 子ども達の希望に添えるように、保育士は余裕のある勤務体制を敷いており、お散歩の機会や園外保育の機会を多く設定している。(プール遊びをしている様子や職員会議録等にて、取組みの内容を確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>発達に応じた探索活動が十分にできるよう、玩具の種類や配置場所など常に見直している。 なすやトマト、枝豆の栽培や身近な生き物とのふれあいを通し、興味や関心を高めるようにしている。 家庭環境では満たしきれない部分も多いので、積極的に園外活動を取り入れ、様々なことを実際に感じる機会にしている。</p>	<p>各保育室には、発達に応じた玩具を十分用意している。(保育室の玩具類の設置状況やコーナーの様子にて、内容を確認した。) 園庭や屋上のプランターで、野菜や花を育てており、子ども達は保育士と一緒に、水やりや野菜の観察や収穫を行っている。金魚を飼育し、餌やりや観察を行っている。(園庭や屋上のプランターでの栽培の状況や写真、金魚の飼育の様子にて、取組みの内容を確認した。) 積極的に園外活動を取り入れ、散歩の際、見つけたカタツムリなどを、保育士と一緒に餌やりや観察を行って、命の大切さを学ぶ機会にしている。(職員会議録や園だより、写真にて取組みの内容を確認した。)</p>
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>献立会議で、栄養士も一緒に、一人ひとりの24時間を見通した生活リズムを知り、可能な限り個別配慮をしている。 食材の栽培されている様子を見たり、収穫したり、また皮むきなどの手伝いを通し、食への関心を高めるようにしている。 年齢に応じた使いやすい便器や環境を整えたり、絵本などで排泄への関心を高めている。</p>	<p>献立会議は、栄養士、園長、クラスの代表が参加して、毎月開催している。栄養士は3名配置されており、離乳食の初期やアレルギー食への対応がされている。(献立会議録や献立表、給食のサンプル展示等で、内容を確認した。) 園内のプランターや外に畑を借りて、じゃが芋や稲を育てている。その成長や収穫、調理の手伝いなどの機会を通じて、食への関心を高めるようにしている。(保育室の掲示物や食育年間計画にて、内容を確認した。) 年齢に応じた使いやすい便器や環境を整えたり、排泄への関心を高めるようにしている。(1階、2階のトイレの様子を確認した。)</p>
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>身の回りのことを自らやろうとする意欲を育むため、声かけの仕方や見守りについて細かに話し合いを重ねて対応している。 身体を使った遊びを十分に行うことで、食事や休息が健康な身体に必要なことを気付かせるようにしている。</p>	<p>自分のことは自分でできるように、見守りや声かけを行っている。スケジュールに沿って生活を経験し、みんなと一緒にやればできることや、達成感が感じられるような関わり方をしている。お泊り会の食事作りを通じて、ご飯を作らなければ、ご飯を食べられないことを経験している。(職員会議録にて、取組みの内容を確認した。) 身体を使った遊びを十分に行うことで、食事や休息が健康な身体に必要なことを気付かせるようにしている。(プール遊びの様子や午睡の準備の様子で、内容を確認した。)</p>

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐくむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>登山、お泊り会、野外炊飯、野菜の収穫、苗つけ、稲刈りなどを通し、豊かな心と健康な身体作りをしている。 サッカー指導を通し、みんなで力を合わせて一つのことをやる喜びに気付かせたり、身体の使い方などを知らせている。 年長児には、煎茶指導でゆったりした静かな時間を提供している。</p>	<p>高尾登山や発表会、運動会などの行事に対するクラスの目標や個別目標、配慮、効果・反省を記録している。園庭や畑を借りて野菜作りをしている。6月には、じゃが芋の収穫を行い自宅に持ち帰った。さつま芋や稲も栽培して、定期的に観察や世話をしている。(年間行事予定表や指導計画、職員会議録等にて、取り組みの内容を確認した。) サッカー指導では、近隣3園で交流試合を行い、他園児と交流している。(園庭のサッカーゴールの設置や写真にて、内容を確認した。) 5歳児は、外部講師による煎茶指導を月2回受け、行儀作法や挨拶の仕方を養っている。(お茶会に使用する和室を確認した。)</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>朝夕交代勤務の正職員を、同じパート職員がサポートして、長時間保育の子どもへの安定した受け入れに努めている。 延長保育では軽食を提供し、実だくさんスープなど食材を多く使った内容になるよう努力している。</p>	<p>延長保育は、正職員と一緒に、毎日同じ延長保育職員が対応しており、長時間保育の子どもへの情緒の安定や、負担の軽減に努めている。(保育室での掲示物や園だよりにて、内容を確認した。) 延長保育軽食献立表を作成して、保護者に配布している。延長保育軽食献立は、オニギリなどと一緒に、栄養のバランスを考えた野菜などを多く使った実だくさんのスープ類を出している。(延長保育軽食献立表や調理室の様子にて、内容を確認した。)</p>
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関しての特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>病後時の体調を考慮して消化の良い食事などを提供し、回復期の配慮をしている。 普通食献立以外に、離乳食献立も保護者に配布して、離乳食の進め方の参考にしてもらっている。 大豆、牛乳、卵などのアレルギー対応の食事を提供し、個別の除去食用献立を保護者と毎日、確認している。</p>	<p>病後時など、消化の良い食事を出してもらう際には、「食事の人数表」に、主任保育士が朱書きで「消化の良い食事」と書いて知らせている。(食事の人数表にて、内容を確認した。) 離乳食献立中期、後期を作成している。初期については、栄養士、保育士、保護者の話し合いで、個別に連絡帳により対応している。(保育室での様子や離乳食献立、連絡帳にて、内容を確認した。) アレルギー対応の子どもメニューは、個別に献立表に栄養士が赤字修正を行った上、担任と保護者で、毎日チェックを行っている。トレイの色も変えている。(食事の人数表にて、内容を確認した。)</p>

<p>食に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>給食に関連したミニ知識を掲示して、保護者の食への関心を高めている。 栄養士を配置して、1汁4菜のバラエティに富んだ園独自の食事作りをしている。 3大栄養素を色分けして、食材に関心を持つようにしている。</p>	<p>栄養士3名、調理員1名が勤務しており、毎月の献立会議や全体職員会議に参加している。アレルギーや初期の離乳食などは、保育士と栄養士、保護者と話し合いながら、個人の発達段階を考慮した食材を使用して、連絡ノートに記載している。園内に食事サンプルを掲示している。(献立表や園だより、食事のサンプルにて、取組みの内容を確認した。) 味付けには極力、化学調味料を排して、和食中心の1汁4菜の安全な食材にこだわっている。食器やスプーンの大きさも、子どもの発達状況に合わせ数種類、用意している。(園だよりや食事のサンプル、給食の様子にて、内容を確認した。) 3大栄養素を色分けして、食材に関心を持つようにしている。(保育室の3大栄養素色分け表や給食時の栄養士の説明にて、取組みの内容を確認した。)</p>
<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>保育園でどのようにして過ごしているか知ってもらい、保護者との共育での関係作りに努めている。 連絡帳を全園児に用意し、保護者との情報交換に努めている。 月1回程度、園だよりやクラスだよりで、その時々様子を知らせている。 クラスの見学随時受け付けを行っている。</p>	<p>例えば、母親の国籍が異なる場合、重要な連絡などは父親に伝えたりしている。(年間行事予定表や懇談会資料、各保育室前のホワイトボードにて、内容を確認した。) 連絡帳を全園児に用意し、保護者との情報交換に努めている。(各保育室にて、全園児に連絡帳が用意されていることを確認した。) 毎月発行される園だよりやクラスだよりに、毎月の目標や行事予定、保育の様子を写真入りで伝えている。(園だよりにて、内容を確認した。) クラスの見学は希望により、随時受け入れている。特に、0歳児の慣らし保育期間などでは、食事の場面を見学してもらっている。(懇談会の資料や報告にて、内容を確認した。)</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>地域の子育て親子に集える場を提供している。 ふれあい動物園や夕涼み会、餅つき等、各行事に招待し交流を図っている。 緊急に保育を必要とする子どもへの援助を行っている。</p>	<p>月に2回、保育体験や「あそぼうデー」の日を設け、保育相談や園庭開放は随時、行っている。(育児センターだよりや玄関の掲示物にて、取組みの内容を確認した。) 保育ウィークの「ふれあい動物園」は特に好評で、70～80名の親子の参加がある。園の玄関や近隣のケアセンターに掲示する他にも、機会を作って、近隣の公園でチラシ配りを行っている。受け入れは、主任保育士と非常勤職員が担当している。(園だよりや玄関の掲示物、近隣のケアセンターの掲示板にて、内容を確認した。) 一時保育は、週3回の定期的な利用の他、保護者の通院などによる緊急時にも対応している。(子育て相談記録にて、内容を確認した。)</p>